明治二十年五月十五日出版
明治二十年六月十日再版

每月一回發行
壹冊正價廿錢
全國無郵送稅

# 通信女學講義錄

第貳卷

女學雜誌社



Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

Digitized by Google

Original from
CORNELL UNIVERSITY

文章は時代によりて其體を異にす

上古の文躰

文章によりて上古風俗の朴直なりしと人心の優美なりしとを知る

# ○文學一斑（第二回）

## 文體の變遷

文章は世の姿をうつす鏡とこそいはめ。世の移ひゆくまに〳〵その體をかへて一樣ならず。その世それ代の人情世態は當時乃文にて大畧は知るゝものぞかし今の世に傳りたる最も古きは大祓詞、神壽詞の類の祝詞なるが其詞ははなやかならねど自からの彩あり。朴直にして淡純しくは見ゆめれど氣高き風趣あり。我が國上古の風俗敦厚なるが上にその心も優にその氣品も高かりしを推知るゝにおそ（延喜式の祝詞、續日本紀の宣命などには上世の言辭れまゝを傳へたるが多かれば尙いにしへ



Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

二

中古の文體

の文體を窺ふを得べし。書籍となりて長くつゞれる古文ハ古事記を最古しとすれバ上古の文體を見るに便よきは此書なり）

中古の文にては誰も知る伊勢物語、竹取物語うつぼ物語、源氏物語、枕の草子の類なるべし。此等のうちにても其書のあらはれし時の違ひもあれバ各すがたを殊にせり。竹取ハ古雅にして伊勢ハ浮華なり。趣向たくみに言詞うるはしく抑揚頓挫、倚伏、波瀾の諸法を備へて他のに超たるハ源氏にぞある。

諸法を備へたる華彩ある文章あらはる

然バこの頃はひや文學の眞盛にして世の情態も大いにかはり人の思想も世の事物もすゝみに進みて漸う醇素なる古の風ハ廢りうせにけん。凡百ハみ

扑直の風は絶えて世やうやく華美に進む



Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

な精微もなり且華麗にも移りたるぞ自から知れぬべし
そのゝち建暦のころ鴨の長明が著はしゝ方丈記てふも
のあり。又無名抄、發心集、伊勢の紀行、鎌倉道乃記、四季物語
なども、へるもあり(四季物語は二條爲定卿、飛鳥井雅世卿、
等の奥書ある寫本のゝハ實と覺ゆれど世に梓に上して
流布せるものて長明れ作れるにハあらず。道れ記も名れ
みにして今ハ傳らず惜きおゝち爲なり。其紀行とて版本
の世にあるハ皆いつはりにして長明が遺稿にはあらず
かし)建武の年間にや成出けん吉田兼好の徒然草といへ
る世にもてはやされし書あり。此等の作者は當時の名手
なれば文體も卑しからず尚は見所おはかれど中古れ文





Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

文体中古に及ばず

兵乱打續き文學衰ふ

に較べなば一向にけおされて見ゆ。たとへば貴にうつくしき官女がもとに醜けき賤女の立るがごとし。然ば此頃ほひは文學もいさゝく衰ろへ世の狀も中古には及ばざりけんとこそ知るれ。この頃の文を近古體とや假にとなふべき

文体を上古中古近古の三期に分つ

さて兼好のころまでの邦文を三期に分ちていはゞ大祓神壽の類の祝詞、古事記の文、續日本紀の宣命などを上古體とし。土佐日記、源氏、枕草子、榮華物語など云る書どもを中古體とし。方丈記、無名抄、徒然草、および神皇正統記などを近古體として大かたは錯ふことなかるべし此の三の

三期の文体を論ず

期の文の生たちを花になずらへんに上古のは蓓蕾のわ

四



Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

三期の後も稀に見るべき文章なきにあらねど總じて文章廢れたりと云ふべし

づかに色をあらはしゝに似て紅紫の芳菲を闘はしむるが如き艶態こそなけれ淡泊輕粧おのづから一種の清韻佳趣あり。中古のは咲匂ふ花の今を盛りに濃妍を競ふに似て妖紅艶紫の春態に矜るの美観あり。近古のは花の盛りもはや過ぎて色もいつしか變ろひ香もやう／＼衰ろへたるに似て亂紅殘紫のなほ餘香をとゞめて人の惜情をひくの風趣あり。この三期のうちも藤原實隆、藤原兼良公のごとき勝れたるが稀にはあれど此は恰も嵐の情なく梢を吹はらへるのち僅かに二三の花みのこれるがごとくにぞある

然ば邦文の見るべきものは三期の中にありとおそ知ら





Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

文學興りて再び好文章世に出づ

宣長ハ古史、故實、歌學、語學に精しく千有餘年埋れたる諸學を復興す○春海ハ律令格式典故に名あり○千蔭ハ歌學詠歌に譽れあり

今世の文躰

高尚ハ本居宣長の門人にて姓ハ藤井といへり當時の文章家にして名ある人なり

るれ。近古の期をすぎての後は文章の花ちりはてゝ再び春色と樹々の梢に見ることなかりしが徳川氏の世にいたり兵亂ハ跡を絕ち文學の道ハやゝに開けぬれバ元祿の頃なりけん攝津の國に契沖、春滿、なんどいへる人いでゝ我が國の古き書どもを研究して古學を創めしより春滿の門弟に加茂眞淵いで其門人に本居宣長、村田春海、加藤千蔭などいふ名の聞えし徒おほく出きにけれハ文章のさまも頓にあらたまり古のにもをさ〳〵劣るまじき俗を超たるが多かりける。眞淵の文ハ古雅にして雄々しく。宣長の文も優美にして氣高し。春海のハ文のすがた流暢ならねど抑揚波瀾ありて見どころ多く。高尚が文ハめゝ

六



Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

擬古の文は廣く世を利せず

文章の要は世間一般に通達するに在り

し、けれど巧にして華彩あり。おの〳〵其體おなじからぬどみな當時の名手とやいはまし然はあれど多くは皆いにしへに擬へる雅文にしあれば廣く世の人の目に觸しめて其文の樂を一般に分ちあたふること能はず只いにしへ學せる僅ばかりの人のもてはやし種となりゐきたるぞ惜きわざなる。文章の要は事實にまれ作り物語にまれ時にふれての見聞思想にまれ筆記して人の目に見易く我が旨の人皆に通ずるにあり（總論に「日用に便し後來の資となす」といへるを思へ）世々の書ども、皆然る趣向にて物せりとこそ知るれ。上古は文と辭との違ひだに無りしことは既に総論に述たりし



Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

世々の名文は皆その時代の上等に行はれたる通語なりき

名ある文の中に古への調べすがたを取り用ゐしが多し

貫之その日記に古文の躰をうつす

が中古なる源氏物語枕の草子、うつぼ物語等いづれも當時の人の語を然ながら用ゐ記しゝものにて殊更に古言をかり古文に倣へるものにはあらず。近古なる方丈記、徒然草の類とても當時の通語ならざるはなし（徒然草に枕の草子、源氏などより取たりと思はるゝ語勢の見ゆるがあれど其はその愛たく美しき調をまなべるにて悉くを古きさまに擬せるにはあらず。言辭のつかひざま文のしらべなど昔しのゝに法とすべきが多かれば學びとりて今に施すは宜しきことなり。貫之の土佐日記なる「こげどもこげども、しぞきにしぞきて」といへるなどは全く上古の祝詞の調をうつしゝなるべし然どその文は當時の人 八



Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

文章の妙は語調文調の温雅と語格文法の正確とより生ず

今の世には今の世の文を貴とす

古の名文章を學ばざれば今の好文章は成らず

の誰にも目易かりしは疑ふべくもあらざめりたゞ妙手の文章の欣感は職とその言詞づかひの美しきと文調の優にすぐれたると語格文法のあやに正かるとにありて強ちに其代ならぬ古言古體を用ゐしものにはあらず然は今の世の人は今の世の文を作べきものにこそ彼の國學者流の擬古の文かくは益なき事ならまし。然はいへ古への勝れたる文ども一わたりは見もし傚ひもせざれは今様の文をも綴ることかなふまじければ古へ今の妙手の文を味ひみて言詞づかひ調べのさまなど語格文法の用ゐやうなど知わきまへそかでは便なしかるべし

附 和學の道の開けし元祿の頃ほひより後の文は前の三期に對ひていはゞ今世體





Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

など稱ふべきなれど其實はこの頃ある名家の文はおほかたは古の風にならへるあれば時代の姿とはいひ難し。然ど尙おのづから其代の態の存ずるものにしあれば文體を論ずるに便ともなるべき故に當時のゝを今世體とやいはまし。然ば邦文の躰ハ上古、中古、近古、今世の四體とはあるなり。斯は定むるものゝ此はたゞ大畧にかいつまみて言るなれば是にて文の變遷りたる體の盡たりとにはあらず。詳しく爲んにはなほ數多な區分べきあれど他にも言まほしきことの多かれば先かいなでにおどろかしおきさて末にいたりて文法をしめさん序に世々の文をかゝげいだして其體をも細かに辨へしめんとは思ふなり



Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

# ○女子生理　(第二回)

## 第一章　月經の事　其二

月經を見ざることのある事

既に子を孕む後、又は乳を飲ます間、若くは子宮に病ある時は、決して月經を見ず、特に甚しく疲勞したる折、又は非常の疾ある時、若くは勞症の如き病氣に罹りたる人ハ、大方此の月經はなきものなり。

懷姙したる後に月經なき事

但し或人の說に假令ひ懷姙したる後といへど、尙は月經を見る婦人往々之れ有りと云ふ甚た不思儀なる申條なるが、之も少しく事實を誤りたるなり。凡そ既に胎內に子を孕めば、子宮の口に軟かき膜を生じ、之を以て其入口を塞ぐものなれば、此內よりして下し物を出すべき道理あ



Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

る可らず然るに實際懷姙の後、時として月經に似たる血を下すこともあれども、之は固より眞の巡り物にあらず、實は胎内の血液が、如何にかして漏れ出るにてあるなり、然れば、其出る量も少く、又出る間も甚だ短くして、只だ一二日か又は一二時間にて止むを常とはするなり。尤も懷姙の後は、何如なることありとも巡り物を下さずと云ふにあらず、時としては眞の月經水を出すこともあれども、之は彼の軟膜にて被ひたる子宮の口、少しく破れて之を漏らすにてあれば、是れ流産の元にて一種の變事として心配すべき筈なり、早速醫師の診察を請ふて治療の心得を爲すこと大切なり。



Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

**乳を飲す間に月經を見ざる事**

又乳を飲ます間に、尚ほ月經を見る婦人ありと云ふ者あり、之れ亦非常の事にて、決して普通の躰にあらず、但し若し乳を飲す間に尚ほ月經を見ば、此婦人は即はち既に懷姙を爲し得べきものとはなれるなり。然れども又或人の說に、若し此際に月經を見るとあらば、此時よりして、乳の味甚だ甘く且つ純潔となると云ふあり、之は甚だ誤りたる說にて決して然るものにあらず、反つて其婦人の勢力大に衰へて乳の質を惡くするものなり、此故に乳母を雇ふには月經を見ざるものを擇ぶを宜しと爲す。

**月經ある間の養生の事**

偖て月經を見る間はよく〱用心して躰を大切にすべし、烈しく勞働くは宜しからず、又氷水若くは酸き飲物を



Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

月經に苦痛を覺ゆる事

月經の正しからざるより身躰を傷ふ事

飲むは惡し、又海水浴を試み寒水に足を浸す如きことは、此際決して爲す可らず。

又月經あるの前、若くは其間に苦痛を覺ゆる婦人あり、之は躰内に變を生じたるなれば、斯る苦痛ある頃は決して懷姙し得まじきものゆへ、速に醫師の治療を請ふて早く痛みを除き、又子を擧くるの幸を得べし、但し又月經を見る時に苦痛を覺ゆる婦人にして懷姙すること往々なきにはあらざれども、斯る懷姙は大抵皆な流産するものなり、故に何れにしても早く治療せざれば不可なり。

婦人方の中には顏色青く、容貌衰へ、息氣づかひ微かにて、少しく運動すれば直ちに呼吸せはしくなり石段を上る

月經の滯に酒を飮む事

にも尚は掛念する如き人あり之はいろ〳〵の元因あり て斯る衰弱を來らせたるものにはあれども其中の尤も大なる元因の一は卽ち月經の無きか不足なるか又は餘りに澤山なるかに因るものなり月經の事甚だ小さきやうに思ふ人もあれども其の爲に起り來る結果は甚だ恐るべきものなり世間幾多の娘子が勞症の爲に死して時ならず墓に入るもの其元多くは月經の調はざるにあり決して輕んず可らざる事なり世の母親たる人は特によく注意して娘孃の爲に斯る害を除くべし。

月經の滯りたる節ジン酒を飮まば効驗ありなど云ひて素人考に手療治するものもあり之は宜しからざることに



Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

て之が爲め他日酒を好むの習慣を造ることありそれよりも醫師に相談して適當の治療を請ふを善とす。

**婚姻の前に月經に注意すべき事**

婚姻の約既に調ひ最早や良人の家に嫁せんとする婦人にして若し其月經に痛を覺ゆるか又ハ月經不足なるか、若くは下り物の色餘りに白きか或は黒過ることあらんには暫時婚姻の猶豫を乞ひ醫師の診察を得て治療せざる可らず然らざれば万一懷姙したる時產甚だ重きか又は流產などすることあるべし。

**白帶と月經との關係の事**

又既に妻となりたる婦人方は白帶を病むことあり此病あるときは月經も亦は亂れて正しからず但し白帶の元因は亦た月經の正しからざるに由るものなれバ早く醫師





Digitized by Google Original from CORNELL UNIVERSITY

月經の正しからざるより起る疾病の事

の教を受て月經を治むべし然るときは白帶も亦自から止むものあり。

要する月經の正しからざるは眞に輕々しく思べからさるものあり例へば下り物の色或は赤くなり或は黒くあり或は又白く若くは靑き色あどを呈して其時々に相違し又僅かに一二日丈け廻りありて其後乍ち止み或は少かの心配苦慮等にて心を動かしたる爲に亦乍ち再び廻りあることなどあらば之れ即ち子宮の内すでに健康を失したるなり成べく速に治療せざれば之よりして時々白帶を起し又は神經銳く心亂れて所云るヒステリックの病を起し左の脇腹に痛を覺へ腹内に風氣を生じ躰の





Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

所々に神經痛を感じて、あちこちに苦を覺へ、殊に腰又は臀の邊に非常の苦痛あり、心臟鼓動して之に病あるかの如く心配さするなどさま〴〵の變化を見るべし、此等の事皆な月經の正しからざるよりして來るものなり、故に姉妹方は能く〳〵心得て、速に治療し給はずんば、啻に其一身を苦むるのみにあらず、尚は女の爲すべき責任をも得盡さゞるの不幸を見るべき也。

月經に關する事、尚數多あれども、大畧は右の條々なり、其餘の新説は、一と通り講述したる後に至りて更に説明すべし。





Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

容易に紹介狀を書くまじき事

○西洋女禮（第一回）

## 第二章　婦人書面紹介の事

書面にて人を紹介せんとする時第一に心得べきは紹介狀を重んじて餘り容易に之を書かさることなり例へば東京西京の如き地へ出る人に吾が紹介狀を持たせて、在京の友人へ案內せんに此の人は之が爲に思はざる宴席等へ招かれ反て迷惑することもあるへく又先方の友人は之が爲め好まざる人をば己が知己として取扱はざるを得さることもあらん、故に初より己が紹介せんとする人と人との氣象其外を考へ合せ到底末長く互に交際し得べき人々なりとの見込を得たる上ならで



Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

紹介狀を持參して人を訪ふ心得の事

は成べく紹介狀を書かざるを第一の禮となす。

紹介狀を持參して人を訪はんとする時には先づ此紹介狀に自分の名刺を添へて先方へ出し置き其日は主人に面會せずして其儘歸宅すべし然らずして紹介狀を持參して其日直に面會すれば主人は此客を待たせ置て狀を開き見ざる可らず甚だ不都合なり故に一と先づ之を出して直ちに歸宅すれば禮を知る主人ならんには其翌日自ら此の客の宿所へ來りて復た名刺を出し答禮するか又は其宅え來駕を請ふとの書狀を送り越すならん斯て後ち之を訪ふて初て面會すべし。

但し此客若し外國の人にてあらば主人は其翌日必らず





Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

**來訪の客外國人なるとき主人の心得の事**

之を訪ふて答禮するのみか又之を招待して共に食事するを宜しとす若し此の事不都合ならば之を伴ふて博覽會慈善市若くは其時々に珍らしき場所へ遊び之を饗應し遠客の心を喜ばすべし。

**客を招待して會食する時の事**

斯て此客を招待して共に食事するときは己と二人のみにて參るよりも更に其友人若干を招いて諸共に會食するを可とす然るときは此の遠客をして更に知己を多く得たるの樂あらしむるのみか此を己に紹介し來りたる友人の志をも彌よ滿足せしむるものなり。

**會食に合せ招くべき人の事**

尤も此時共に招くべき人は必らず己と同等の地位に在るもるに限るべし。



Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

紹介狀の封を開き置く事

紹介狀の用紙の事

朝の訪問の時刻の事

紹介狀は封を開きたる儘にて渡すを禮とす、之れ紹介を望みたる婦人へ對して已れが信用を示すに足るなり、特にこの信用まことに有るなくば敢て紹介狀を書くべきにあらざれバ開封の儘之を渡すを決して不都合なしとせり而して、若し之を封じて渡さんには、其前に、文言を一應示すを禮とす。

紹介狀を認むる用紙ハ、良好の品にて、且つ適宜の大さなるべし、アルバート種、若くは、クイーン種と云へる洋紙が、宜しかるべし。

## 第三章　婦人訪問及名刺の事

朝の訪問、即ち、モーニンビジットと云へるは、冬ならバ午





Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

訪問中談話の時間の事

答客の訪問の事

后二時より四時の間、夏ならば同二時より五時の間たるべし、斯されば、中食取片付の後、及び夜食用意の前に、相應の暇を置くに足るなり。

凡そ儀式上の訪問には決して長座すべからず、會話たとひ甚だ愉快となりて雙方面白感じたりとも、一時半間よりも長く留るは不可なり惣じて客たるものは、主人に其歸らんことを望まるゝよりも、歸りて後ち之を惜まるゝの優れるに若かず。

婦人の訪問の答禮として之を訪ふ時は、只だ名刺を差置く迄にて歸るとも不可なし強ちに内に入りて主人に面會すべきものと思ふ可らず、尤も此際取次の人へ、御





Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

家內御機嫌よろしきやと問ひ置くことを必要とす。

婦人多き家族を訪ふ時の事

若し婦人を訪問するとき其家に、娘孃若くは姉妹等同居さるゝときは名刺の一隅を折りて惣躰の方々を訪へりとの意を通ずるを禮とす尤も更に宜しきは即ち此の方々へ個々に一枚づゝ名札を差置くことにあり。

代訪の事

答禮の訪問か、又は、其到着若くは出發を報ずる迄の訪問にあらされば、家僕に名刺を持たせて代訪するを不可とす。

暇乞の訪問の事

暇乞の折は名刺の隅に、P. P. C.（Pour Prendre Conge,）と記るすべし或は亦た、P. D. A.（Pour dire Adieu）と記るすこともあるべし、



Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

**ミスと云へる樣の文字を名刺に附する事**

乙女の方々が訪問の折の名刺に、Miss と云ふ英字に相應する文字を姓名の上に附するは歐洲の大陸地方にては、宜しからざることとせり、故に、Mademoiselle または Frau—lein 等と認めずして、寧ろ Emilie Dubois 又は Katchen Clauss と記るすあり、左れば、英國にても近頃は此風に傚ひ、自らミスと認ることを廢するものあり。

**悔の爲の訪問の事**

悔みの爲めに訪問するには、事の起りたるより後ち一週の間に爲すべし、而して、甚だ親密の人か、又は親族の者に限りて、自ら訪問して家族に面會すべし、其他の知己は、名刺の周圍に細き弔線(黑き線)を引き差置くべし。

**不幸ありし家を訪ふ時の事**

不幸ありたる家族よりして、其の後招待さるゝときは、(卽



Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

傘置場所の事

子供又は犬を伴ふ事

新客の入來る時に暇乞する事

ち不幸ありたる後、初て之に面會せるの時あり)畧式の喪服を着くるを禮とす。

訪問の際、傘は必ず入口の室内に殘し置くべし。

朝の訪問を爲す時、室間に犬を伴ふ樣のことあるべからず、又同時、母親は子供を伴ふを不可とす、

訪問したる折、あとより他の客入り來ることあらんに其節、もはや適宜の禮に相應する程に留り居たる後にてあらば、此の新客の座定るを待ち靜かに立ちて主婦人に暇乞ひし、又溫しく新客に一禮して去るべし此時主婦人が之を止むることもあるべきが既に一度び立上りたる上は矢張り立歸るを善とす、





Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

時計を出し見る事

訪問中自ら時計を出して見ることあらんには先づ主婦人に斷りを述べ何か別に用事あることを告げ作ら之を見るべし主婦人の前にて時計を數度び眺め見る如きは實に失敬の至と云ふべし。

來客あるとき仕事を止むる事

朝に訪問を爲されたる折主婦人若し仕事を爲しつゝあらば大抵は之を止めずとも可なり特に少かの針仕事か又は飾用の縫物ならば敢て止るに及ばず尤も音樂揮毫其外すべて注意を多く必要することならば直ちに之を止むるを要す。

客を迎に出る事

來訪の客あるとき其名前を通じ來りたる後わざ／＼自ら迎ひにとて出づるを要せず尤とも非常に之を待せ



Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

んとするの心あらば此限にあらず）その客間に入りたる時一歩進み出で、手を握り客の座に就くまで靜かに立つて之を待つのみにて十分ならん。

**來客を送り出る事**

來客すでに去らんとて座を立つ時は己も亦た立つて、之に禮し客が室間を出で去る迄は靜かに立つて目送をべし戸口まで送り出づるを要せず尤も適宜の時に鈴を鳴らし僕をして客を送るべき用意を爲さしむること大切なり。

**訪問の折の衣服の事**

朝の訪問を爲さんとする婦人は好く着服するを禮とすれども決して餘り華美に裝ふべからず若し馬車ありて之に乘りて行くときは歩にて行く時よりも美服を





Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

着くべし但し時刻に依りて衣服を違ふるの心得は後章に於て說明すべし、

## 第四章　婦人會話の事

會話は女の務の事

會話を好くするは卽ち婦人の一の務なり、故に才智あり且つ經驗したる婦人の談話の如く樂しく且つ面白きものはあらず。

會話を能くするに必要の性質の事

凡そよく會話せんとするには三の性質を必要とす卽ち才氣記憶及び良き教育これなり。

會話を面白くする秘訣の事

會話を面白くなさんとには先方の人の有樣に隨ひ其尤も好む所に應じて話しかくるを一の秘訣となす卽ち、母に對せば其の子の事貴孃ならば前夜の宴會の事記

三〇

者あらば其將に出版せんとする新著作技術士あらば其出品の畫類などに就きて談じかくべし斯て先方が之に答ふるを謹んで聽くべし之を品格宜しき禮式となす。

**會話の聲音の事**

會話の際聲を溫和に且つ低くするは婦人に取りて第一に大切のものなり凡そ聲高の話しは眞に不禮にして樂しからざるものなれば其高からんよりは寧ろ低くするやうに心得て常々談話すべし。

**通俗の鄙語の事**

通俗の鄙語を用ひて才あり氣に心得るものあり之ハ其人の品格を大に落とするものなれは能くつゝしみて之を避くべし



Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

諺又はシャレの事

諺を談話の中に混ずるも亦宜しからず、シャレも亦た笑話の際にあらずんば不可なり凡そ婦人にして、シャレと申すは大抵見惡くきものなれば何如に頓智あるとも若き女方は特に用心して斯る言葉を用ふべからず。

長き議論の事

會話の際餘りながくしき議論を爲すは宜しからず例令ひ論客を持てなすとの心得ありとも亦許すべきにあらず惣じて會話は一の事柄にのみ長く語るを不可とするものなり。

宗教の事を談ずる事

尋常の會話には決して宗教の事を語るべからず宗教上の事は人々各意見を固守するが爲に、之を論ずるの折は吾知らず本然の氣質を現はして兎角頑固に言ひ張



Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

ることもあるものなり故に大抵の會話の際は用心して之を語るべからず。

**談話を中ばにて止むる事**

他人が談話する間も決して中ばにて之を止むるやうの事なるべからず或人の言に人の談話を中止するは猶は同件としてそゞろあるきするとき突然人の前に突立上りて、之が歩みを止むるが如しと云へるは眞に面白き説なり。

**談話を聽く心得の事**

他人の談話を能く聽くは、恰も自らよく會話するが如し、但し能く之を聽くとは、即ち之を面白く感じて持てなすを云ふことなり。

**密語又は隱語の事**

數多の人集りて在るとき只だ二人して密語あひ又は餘

三三



Digitized by Google Original from CORNELL UNIVERSITY

**外國人との列席の時の事**

の人に分らざる言語にて語り合ふは大なる不禮の事なり若し必らず談ゞ合はすべき事ありとならば宜く適宜の時と場所とを定めて其節に語るべきなり。小き宴席に於て外國人一人あらんに其人吾國の語を瞭解せずば成べくは右外國人の國語を以て皆々語り合ふを宜とす。

**新客に談話の線を告ぐる事**

談話の際中に新客入り來らんとき尚は前の談話を續くべしとあらば先づ新客に右談話の前部を大畧述べ置きて而して後ち談りつゞくべし。

**談手の顔を見る事**

談話する人の顔を常に見るべし但し之を見つめるは不禮なり



Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

談話を差支なく爲す心得の事

自ら知らざる事を談る心得の事

逸事名言等を用ゆる事

讒謗を云ふまじき事

尊稱を用うる心得の事

交際上の談話を差支なく爲さんには新聞及び近頃二三年來の出來事を心得居るヿ大切なり。凡そ自ら知らざる所の事件は之を質問する心掛にてなくば決して談話すべからず。

談話中に古人の逸事名言等を挾むには其辭短く面白く新らしくて且つ之を述ぶるに能辨なるべく之を用ゆるに容易なるべし。

讒謗は交際社會に於て毫も許しがたき無禮なり。

高位の婦人と談話する折餘りに度々尊稱の名を唱ふるは宜しからず一句毎に奥樣(My Lady)又はMy Lord)と云へるやうの言を挿むは只だ其人の下婢に限るヿなり尤





Digitized by Google Original from CORNELL UNIVERSITY

も時々に尊稱して、其人を敬するの意を表するは宜し、例へば、I think I have already mentioned to Your Grace、又は、I believe, Madam, you were observing と云ふが如し。

會話上の心得、尚は數多あれども、大畧は卽ち右の如くにて足るべし。



Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

# ○万國史畧（第二回）

## 第四章　歴史上人種區別の事

人民は斯くして四方に分れ、追々に蕃殖せる者なれども、學者は、之を分て、五つ六つの人種と爲せり、然るに、人種の分ち方は古より色々の議論ありて、一定せず、近頃は、人種學と云へる一種の專門學起りて、專ら之を論ずるものある程なり、之を一定すること、なか〳〵に容易にあらず、然るに、万國の歴史を述ぶるに當りては、此區別左程に必要のものにあらず、たゞ歴史上の人種區別と云へるものに注意するを、要用とはするなり。

抑も、万國の歴史を述ぶるには、何事にまれ、万國雙躰の進





Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

歴史上の人種區別の事

退に關はりありたる者をのみ擧ぐることなるが、玆に、古より今日に至る幾千年の國に於て、萬國の盛衰に係はる程の運動を、爲したる人民は、大抵白人種に限り、其他の各種の人々は、左したる關係もなく。移り來りしかバ萬國歴史の上に於ては、只だ白人種の事をのみ論述するを專務となし。此一種の人種をバ亦歴史上の都合に隨ひて種々に區別するなり之を歴史上の人種區別とは云ふ。

白人種の事

白人種とは即ち、一に、カウカシアン人種と稱ふるものにて古の埃及人、アッシリア人、バビロン人、ヒブリウ人、フホニシア人、印度人、及び、希臘人、羅馬人等ノ皆悉く此人種に屬するものにて方今西洋文明の地に住する人民も、亦た





Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

皆な之と同様の人種なり、然れば古來の開化は大抵此一種の人民によりて起り若くは盛衰したるものにて支那、メキシコ、ピリウ、等に出で來たる文明もまた少きにあらねど、其万國の上に關係する所なきがゆへに此等三國の人種は万國の歷史に大切なる關りはなきなり然れば万國史は、かの白人種の榮枯盛衰を述べたるまでのものと云ふも或は當る所あらん。

白人種を三つに分つ事

然して右の白人種は其通常使用する言語の相違に依りて之を三に區別し第一をアリアン種第二をシエム種第三をハム種とは云ふなり。

アリアン人種の事

第一アリアン種と云ふは或は之を印度歐羅巴の人種と





Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

シエム人種の事

と稱せり、かの希臘、羅甸、日耳曼の人民又は、セルツ人、スレーボニア人、又、印度人、ペルシア人等は、悉く此に屬して、而して、此等の人民の國語は、昔し印度の人民が用ひたるサンスクリットの語、又は、ペルシヤの人民が使ひたるゼンドの語に似寄る所あるよりして、ペルシア人、印度人、等の先祖は、今の歐洲各國の先祖と共に、元は亞細亞の邊に、ともに住居したるものならんか、前に、シヤフヘスの子孫と云ひたるは、恐くは、後に此一種とありたるものならんと信ぞ。

第二、シエム種と云は、昔し、シリア、アラビア、又は、タイグリス河イウフレーテス河等の近邊に住ひさる人民をも併



Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

て稱するものにて、彼のヒブリウ人、フホニシア人、アッシリア人、及び、アラビア人等は、悉く之に屬するなり、前に、シエムの子孫と云ひたるは、恐くは、後に此一種となりさるものならんと信ず。

ハム人種の事

第三ハム種と云ふは、即ち彼の埃及の人を專ら稱するヿなれども、古へのチャルデア人も、亦た之に屬せるものとなす者なり、前に、ハムの子孫と云ひたるは、恐くは、後に此一種となりたるものならんと信ず。

三人種長所の相違の事

萬國の歴史は、右三種の人民即ち、之を惣稱して、白人種と云ふものが主として運動なさる事件を述ぶるものなれども、右三種が各また專らなる長所を持て、彼此に明なる



Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

アリアン人種性質の事

シエム人種性質の事

ハム人種性質の事

相違を現はしたるは不思議の事なり。先づアリアン種と云ふは三種の中にて尤も活潑なる氣象を有し進歩も亦著しければ著大なる文明は大抵此人種の爲に起りたり、萬國の歷史中にて此人種の事を記載することの甚だ多きは、則ち之が爲めなり。次にシエム種の人民は宗教上の感覺尤も強なりしかば、彼の猶太教、基督教、回々教の如きは、何れも皆な此人種中より起りたり、然れども其性質常に主舊の僻ありて居住も亦た大方は一定し、かのタイグリス河の邊か、又は地中海紅海の邊にのみ留りて、他に移住することなかりきなり。斯て、ハム種の人民と云ふは、昔し埃及、チヤルデア等に於て莫大の進歩を爲したるが如くなれ



Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

ども、其後の文明に差したる關係を遺さずして、万國歴史上より消え失せたり。
歴史上にて、人種を區別するとき、大畧右の如くなれば吾人が茲に万國史畧を述ぶるの順序は、即ち、左の如く定るを以て、宜きを得たるものとなすなり。

第一　古代の東方諸國の歴史

〇一。埃及　〇二。アッシリア及バビロン
〇三。希伯來　〇四。フホニシヤ
〇五。印度　〇六、ペルシヤ

第二　希臘の歴史

第三　羅馬の歴史





Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

歷史上人種區別の表の事

第四　中世時代の歷史

第五　近代歐米諸國の歷史

右一章の大意を括りて玆に歷史上人種の區別を一表に作るときハ即ち左の如し。

- アリアン人種
  - 印度人種
  - ペルシア人種
  - 希臘人種
  - 羅甸人種
  - 日耳曼人種
  - セルツ人種
  - スレーボニア人種





Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

- 白人種（カツカシアン、レース）
  - シエム人種（じんしゆ）
    - ヒーブリウ人種
    - フホニシア人種
    - アツシリア人種
    - アラビア人種
  - ハム人種（じんしゆ）
    - エヂプト人種
    - チヤルデア人種

四四



Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

茲に述べき箇條の事

臍の緒を何にて包むべきかの事



○育兒心得（第二回）

問。前回子供を行水さするとにつきて、色々と御教を仰ぎ候。次には、如何やうの事を承ハりて可然や御指圖願度候。

答。左様にて候。先づ事の順序として、赤子の臍緒の取扱方を御承知あらば宜しからんかと存候。

問。然らば吾々は從來襤褸の類を以て、臍の緒を包みたるとにて候が之につきては何か別段の心得は無之者に候や、伺置度候。

答。西洋にては良きリンテル乃舊き品を用ひ候が甚だ宜きやう思ハれ候。尤も或人の説に、之を一應燒きたるも

リン子ルの纏ひ方の事

のを少しく纏ふべしと申すもあれど之は宜しからざる取扱と考へ候。

問。然らば此のリン子ルを如何なる風にして纏ひ申すべき乎。

答。先づ巾三英寸竪四英寸程のリン子ルを軟かにもみて彼の指を切りたるときに巻くやうなる風にして之を纏ひ之に白糸を以て縛りたる後ち之を上に向けて腹に密着しフラン子ルの腹帯にて之を止むるやうにして巻き縛るものに候。

問。然し斯くして縛りたる上時々出血などを致すとは無之ものに候や伺置度候。





Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

臍の緒の出血をとむる事

答。若し出血致候ハヾ直ちにリンネルを取去り白糸四五本を以て臍緒を縛り試み、血の止むを見て再びリンネルを纏ひ前の如く糸にて縛らば宜からんと存候此時若し早く用意して出血を止めざれバ後に至りて子供の健康を害ふのみか時としては之が爲に其生命をも危くすることありと申候よく／＼心掛て早速介抱なさるべきことに候。

臍の緒は何日ゟて離るべきかの事

問。臍の緒は大抵何日位にて離るゝものに候や。

答。大抵は生れてより五日乃至七日目には離るゝものに候が、時としては十日又は十四日も掛ることあり甚しきは三七日迄でも離れざること有之候。



Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

**臍の緒容易に離れざる時の事**

問。然らバ七日目に至りて尚ほ離れざるとき何か心得の次第等可有之や承知致度候。

答。決して〳〵如何にとも御構ひなさるべからず只だ其儘に放置なさるが宜しからん。之を殊更に構ひたる爲に子供の一身を害するヿ屢バ之れ有るものにて候。

**臍の傷の事**

問。臍の緒離れたる後時としては之を破るヿあり之は如何なる譯にて出來候ものにや伺度候。

答。之は大抵緒を早く離さんとアセリて暴りに取扱ひたる故か又は子供が徒らに泣きさわぎたる故にか因るものなり何れにしても斯る傷の出來たる時ハ速に之を直さずバ大なる害を起すものに候。





Digitized by Google Original from CORNELL UNIVERSITY

臍の傷を治療する事

問。右樣の時には如何にして治療いたすべく候や。

答。之は西洋ならばバルガンデーの膏藥と云ふを大盃の大さほどに切りたる柔皮に塗りて之を臍の上に貼り置くとなり我國にても亦矢張り相應の膏藥いろ〳〵に有之者に候

産衣にフランネルを用ゆる事

問。臍の緒の事は先づ大抵之丈といたし置き之より産衣などの類に付き御教諭を伺度候

答。心得申候さしあたり我國にては兎角フランネルを用ゆるの習慣未だ起らざるやうに候が凡そ子供の衣物類には成べくこの品を用ゆるが宜しく候特に産兒の腹帶となすべきものには是非とも之を御遣ひなさるべし、





Digitized by Google Original from CORNELL UNIVERSITY

産衣の事につき心得べき事

第一躰を溫め第二躰にやはらかに當るなどの利益これ有り候。

問。定めし左樣の事數多御座候半何卒産衣の事につきて心得べき箇條を一と通り御示し被下度存候。

答。先づ其荒增を申上れば凡そ産衣は第一に輕からずば不可なり眞に甲弱き赤子に重やかなる物を着させて喜ぶは實に愚かなることに候故に産衣を少くして風を引かするやうの事ありては無論相成らざる者なれども然らばとて之を徒らに長くして自然重くするやうの事あるは無用なれば足を被ふて十分なるほどの長さとして丈を適宜にし又不用のかざりなどを省きて之を輕くす





Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

ることを專一とすべし。又第二には、産衣ハ溫からずが不可なり特に胸腹足等は、取分け溫かにせざれば病あらん此邊へ、フランネルを纏ふが宜しからんと存じ候第三には、産衣は緩かならずが不可なり餘り之を固くきびしくするときは血の順環もあしく又腹内の諸器械の働が自由ならざるより、赤子を苦しむるを可有之候以上三つの心得は産衣を用意することに付て尤も大切なる箇條にて候なり。





Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

○問答叢話

此一ケ月中に寄せられたる質問のうち別段公に示して益あるものと思ふものなければ、本回は問答を載せず、直ちに三つ四つの叢話を左に說き申さん。

○成立學舍　府下駿河台の成立學舍女子部より今月十日發兌の約束にて、講義錄筆記と云ふを出さるゝ筈なり、其仕組は、この通信女學と同じ樣なるものにて、婦人方が家內に在乍ら勉强さるゝの便を致すものと承はる、然るに、今日まで、尙は發兌なければ未だ一覽は爲されども元と、其學校にて色々の科を受持たるゝ教師方の講義を其儘に筆記するとあれば、定めし面白く出來べきことと察せ





Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

らるゝこの通信女學の編者は、當今世に女學校なるもの多きながら、年晩れたる方々へ教授しまいらすの方法なきを憾として、相初めたることゆへ、世間に若し同樣の企を致し呉れらるゝ向あれば、眞に吾が責任の減じたるやうに思ひて大に安心するところあり、故に右成立學舍より出す講義錄がいよ〳〵世上の必要に應じて有益のものと相分り、尙は此通信女學にて致す丈の事を講述して給はることと認めたらば、編者は直ちに此通信女學を廢し更に必要ながら、尙は世に存せざる所のものに着手すべし此邊は讀者が預め承知ありたき者なり。依ては讀者も亦た、一と先つ、同舍より發兌するかの講義錄を購讀ありて、二





Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

三ケ月の間は雙方を御較べ、御覽あるべし。
因に云ふ、成立學舍女子部講義錄を購ふには、月々三十錢の月謝と、束脩五十錢を最初に納むる規則にて、申込は、駿河臺袋町九番地の同部へ宛つべし。

○細君の務　此通信女學を御覽ある方は、最早大抵人の妻となりて、一家を切盛遊ばさるゝ御人ならん、因りて茲に其方々の御心得の一端を申さんに、凡そ、人の妻となるものは、第一に能く夫を助けて夫と共に大切の事業を成すとの覺悟が大切なり、と云ひて何も夫もろとも外へ出でゝ、一所に働けと云ふことにはあらず、夫の心配を晴らし、夫の勞れを安め、夫の失望を慰めて、其の事業を爲さるゝ





Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

心をば勵ますべしと云ふの意なり先づ家内の飾り付に注意して花生には淡泊に花を挿し書物の片付道具の配り方等にも心掛て万事家の内を面白く樂くなし置きて、夫が外より勞を切つて歸るとき其心を喜ばするやうに爲すべし外より歸りて家の内の亂れたるを見るほど不愉快のものはなきなり斯て又殊更に身をつゝしみ顏色を喜ばしくして夫の機嫌を取り夜に入りて暇もあらば、たしなみの樂器を奏しなどして成べく夫の心を引立置き翌朝再び外に出るときは眞に爽快にして新なる精神を持ち喜んで外出するやうに爲すべし之は實に妻たるものゝ第一の務にて西洋東洋ともにかはりなき心得な





Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

り當今西洋の女風が行はるゝにつけ此樣なる覺悟は反つて彼國に行はれざるものと誤り夫の機嫌のみを取るを卑屈のやうに思ふものもありとか聞けるは甚しき心得違なり西洋の婦人方ほど此一點に注意さるゝの深きハ我國にて多く見ざる所なり然れバ外國人の家とあれば大抵は一つ宛のチルガン又はピアノの如き樂器を備へ夜食后は細君之を奏して家内の人を喜ばすとは多くの人の實見する所ならんなか〳〵此覺悟を輕んずるなどの事は毛頭これなきとなり因て本紙御覧の妻君方は先づ第一に此一つをよく〳〵心得ありて妻たるの務を御尽しありたし此外に尚は數多なる箇條は追々に申上


Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

べき積なり。

○晩學の事　通信女學は最早學校に入りて勉強するとの難き人々に對していろ〳〵と講述いたす積なれども、成べくは、之に安んじて學校の教授は最早受けずとも宜しきなど御考なきやうに致したし特に齢すでに二十五六より三十ほどと御成の方ありとも未だ定りたる夫なき方、又は不幸にして夫に御別の方々は成べく學校に入りて、勉強さるゝ樣に致度ものなり其年が老けたりとも、決して〳〵心臆すべきものには候はず東京横濱の女學校中には二十六七にて、尚は夫を持たず獨身の儘にて居らるゝ方は、眞に多きのみか編者が知れる丈にも二十五





Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

六の方がハる〳〵と地方より登り來り西洋のイロハを初より學ばるゝ方々も少からず候當年二十五六にて既に遲そし〳〵と思ひて掛念せば之より先き五六十年の一生を全く無學にて送り終身人の後に立つことなれども若しその時より奮發して五六年の勉強をすれば三十か三十一二の頃にハ既に日本中にて上等と云ハるべき婦人方の仲間に入るものとなるべし僅かの覺悟次第にて大なる相違あるものならずや故に成べくハ晩年と云へることに驚かず奮發して學校に入り勉強ありたきもの也。

○女の洋服　近來女の洋服論盛んに行れて府下にも追〳〵之を用ひらるゝ方多くなる樣に見受ることなるが之





Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

は編者が嘗て女學雜誌の上に於ても論じたる如く特更に喜ぶべき改良と云ふべきにもあらず、西洋の女方は、日本の婦人が何故便利なる日本服をすて、斯る窮屈なる洋服を用ひらるゝやと笑ひ居る向もある程にて、實は男子が便利上よりして洋服を用ゆるとは同日の談にあらぬものなり、然らばとて吾人は、之に反對するにもあらねどたゞ之にてなくば不可なるやうに言ひ囃やすものあるに至ては隨分の不同意あるものなり、偖て之も一種の女服なりとして御用ひあるならば何卒彼國の上品なる社會に行るゝを取用ひ玉ふことぞ願はしき者なり、例するに腕や頭の邊を露はしたり又腹にコーセツトを〆め腰



Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

に重やかなる飾をつけ、裾に長き者を引づる類は、實に無用にして、且つ有害なるものなり、此やうなる風の女服は、何卒斷然拒絶して、かの學者社會、上品仲間と云ふに行はる、淡泊の品を用ひたきものなり、之は經濟上にも便利上にも又た衛生上にも共に大なる効能あるものと云ふべし、然らずして洋服に改むる女方は、これ一種の退歩を爲すものにて、決して改良にあらず、元より歎息して悲むべきことと云ふべき也。



Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

## ○社告

通信女學講義錄發行れ儀毎月十五日と定め日曜日れ節は其翌日發兌れ事に改め申候に付自今右定日ふ出版可致候

右講義錄は尋常れ雜誌類とは相違いたし初号より引續て購讀を請はざれは効能なき儀ふ付隨て印刷部數をも讀者の數ふ應じて相定め申すに付總て前金御拂込なき間は其注文を印刷部數の中に入れず配達致べき儀ふも無之候に付凡て注文は必ず前金を併て送致あり度候

因て右講義錄第一卷の代價御拂込の方ふて引續き購讀あるべき向い至急代金前送あり度候一冊は定價二十錢にして郵送稅を要せず半年分前金い壹圓ょ候

女學ょ關係れ書類ょて東京書肆の出版に係る分い注文次第取次き郵送可致候因て右御委賴の向は書名に定價の金を添へて送附ありたく郵送賃は大抵其內にて辨ずるやうふ相斗らひ可申過分ょ入用れ節い改めて其送附方を御報可致候

## ●女學雜誌

毎週一回
各土曜日出版

此雜誌は婦女子れ心得となるべき事柄を一切書盡したるものにて社說にい當今の時勢に於て女の學び置くべき事件を信切ふ教喩し又有觸れたる弊害い厭慮なく之を諫め當に務むべき女の責任は綿密ょ之を勸め專ら女流を開化に導くの案內を示し論說ふい我國にて有名なる學者新聞記者等の女ふ關する論話を請ひ又外國の書籍雜誌等ょ出でたる有益の文章は抄譯して相揭げ特ょ女學に關し有名の人々が演說さる丶時は必ず之を速記文にて寫し取り載そるふ付假令ひ之を傍聽せざる人々ょも紙面ふて座ろに之を耳にするの愉快を覺へしめ叢話ふはすべて女れたしなみとすべき事柄を最も平易に談話するとをず故に母親が子を育つる心得、妻が夫に仕うるれ道、娘が學校ょて勉强する方法等を初として家內經濟、家內衞生、等ょ大切ある教又い縫針、洗濯、煮燒、料理れ案內若くい交際とりあしの禮式、男女つきあいの用心讀書運動の要目等は皆



Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

遞信省認可

な此處に於て懇ろに教示すべし次に批評にハ時々に出版する女學に關係の新書の大意を示し且つ之ハ讀て宜きもの之は惡きものと一々に評して讀む人の便利を計り佳傳よハ古今東西にて有名なる婦人ハ固より凡ろ貞操孝烈にして女の鏡とすべき女流の傳記ハ皆甚だ高尙の文に書つゞり尙ほ面白くして有益なる女の小說を一つ宛副へ專ら實際よ女の手本を現はし寄書には各女學校生徒の文章及び有名なる女流の人々の投書を集め尙折々は編者の評をも附し雜報にハ內外に起る女學女事の景況を一切取集めて座がら滿天下の女の景況を示し讀者をして爲に勵み爲に喜ゑび時勢の赴く所を容易に知らしむるの工夫を爲し其外珊瑚の玉と稱する女學上の金言を每號五つ六つ宛相載せ西洋の有名なる學者詩人が咏出さる詩又は文章の中尤も面白きを英語の辭句をあちこちに挿入し每語高尙細密なる圖書を入れ折々と各女學會の景況を特別廣告として細かに報告し尙ほ女論に關する點取文中優等なるものを附錄として載せ文章はすべて平易優雅にして不清潔の文字ハ一句だも紙面に登さゞる等を此雜誌編輯の規則となす

一册五錢郵稅一錢府內無稅● 十册前金郵稅共五十八錢

田口卯吉君結髮沿革附錄○和崎義路君校○巖本善治君跋　渡邊鼎君著

# 東髮案內

美製小本八十頁細圖入
定價十五錢郵稅四錢也

當今東髮流行の折柄其結び方不案內の婦人掛からず此書は日本婦人に適する東髮二十餘種の結び方を丁寧よ敎へ一々細圖を附して信切に案內すれば何如なる僻遠の地に在りて東髮の風を知らざる人々も之に依て容易に自ら試るを得べし特に田口卯吉君の論文東髮會の規則其外をも添へたれば結髮改良に志ある人々は宜く一讀あるべし

○但本社出版の書籍は定價より一錢も割引不致候事

東京新橋日吉町八番地 女學雜誌社

發行所 東京京橋區日吉町八番地 女學雜誌社

持主兼編輯 巖本善治

印刷 森田豐

東京共遊舍印行



Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY